コンクリートライプラリー117 土木学会コンクリート標準示方書に基づく設計計算例[道路橋編] 正誤表

(第1版・第1刷に対応)

ページ	行数 (図表番号)	誤	正
目次(1)	下から 11 行目	3.1 予定耐用期間と・・・	3.1 予定供用期間と・・・
27	表 1.2.1 安全性 (1) の行	構造物の剛体安全性	構造物の剛体安定性
27	表 1.2.1 耐久性の照査	照査項目「施工段階におけるひび割れ」,床版(直 角)の欄の""	" 省略 "
27	表 1.2.1 使用性の照査	照査項目「応力度の制限」, 床版(橋軸)の欄の""	" 省略 "
27	表 1.2.1 安全性(1)の照査	照査項目「部材の断面破壊」, 床版(橋軸)の欄の""	" 省略 "
27	表 1.2.1 安全性(2)の照査	照査項目「疲労破壊」, 床版(橋軸)の欄の""	" 省略 "
27	表 1.2.1 耐震性の照査	照査項目「下部構造」, 橋脚の欄の " 省略 "	и и
30	上から2行目	3.1 予定耐用期間と・・・	3.1 予定供用期間と・・・
34	図 3.6.2 タイトル	入力地震動動加速度波形	入力地震動加速度波形
35	表 3.7.1 安全性 (1) の行	構造物の剛体安全性	構造物の剛体安定性
50	図 6.1.1(2) 左列 上から 3 番目の枠	異径鉄筋	異形鉄筋
50	図 6.1.1(2) 右列 上から 3 番目の枠	異径鉄筋	異形鉄筋
50	図 6.1.1(2) 右列 上から 6 番目の枠	異径鉄筋	異形鉄筋
83	上から6行目	。は1.0としよい	cは1.0としてよい
83	上から8行目	d/1.15 としよい	d/1.15 としてよい
83	上から 12 行目	k_2 は1.0としよい	k_2 は1.0としてよい
87	上から 1 行目	$g_i \frac{N_d + N_p}{N'_{oud}} = 1.0 \times \frac{-398 + 75,380}{315,555} = 0.24$ 1.0	$g_i \frac{N_d + N_p}{N'_{oud}} = 1.1 \times \frac{-398 + 75,380}{315,555} = 0.26$ 1.0
87	上から2行目	$g_i \frac{N_d + N_p}{N'_{oud}} = 1.0 \times \frac{-3,646 + 19,887}{149,815} = 0.11$ 1.0	$g_i \frac{N_d + N_p}{N'_{oud}} = 1.1 \times \frac{-3,646 + 19,887}{149,815} = 0.12$ 1.0
87	上から6行目	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.0 \times \frac{-263,012}{-541,828} = 0.49$ 1.0	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.1 \times \frac{-263,012}{-541,828} = 0.53$ 1.0
87	上から 7 行目	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.0 \times \frac{-356,661}{-543,220} = 0.66$ 1.0	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.1 \times \frac{-356,661}{-543,220} = 0.72$ 1.0
87	下から 5 行目	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.0 \times \frac{53,459}{72,681} = 0.74$ 1.0	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.1 \times \frac{53,459}{72,681} = 0.81$ 1.0
87	下から 4 行目	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.0 \times \frac{27,212}{70,351} = 0.39$ 1.0	$g_i \frac{M_d}{M_{ud}} = 1.1 \times \frac{27,212}{70,351} = 0.43$ 1.0
90	下から2行目	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{yd}} = 1.0 \times \frac{16,512 - 7,435}{18,900} = 0.48$ 1.0	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{yd}} = 1.1 \times \frac{16,512 - 7,435}{18,900} = 0.53$ 1.0

			1
90	下から1行目	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{yd}} = 1.0 \times \frac{11,974 - 5,820}{18,900} = 0.33$ 1.0	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{yd}} = 1.1 \times \frac{11,974 - 5,820}{18,900} = 0.36$ 1.0
91	上から 5 行目	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{wcd}} = 1.0 \times \frac{16,512 - 7,435}{30,211} = 0.30$ 1.0	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{wcd}} = 1.1 \times \frac{16,512 - 7,435}{30,211} = 0.33$ 1.0
91	上から6行目	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{wcd}} = 1.0 \times \frac{11,974 - 5,820}{30,211} = 0.20$ 1.0	$g_i \frac{V_d - V_{hd}}{V_{wcd}} = 1.1 \times \frac{11,974 - 5,820}{30,211} = 0.22$ 1.0
92	図 6.2.1 左列 下から 4 番目の枠	異径鉄筋	異形鉄筋
93	図 6.2.2 左列 下から 4 番目の枠	異径鉄筋	異形鉄筋
96	表 6.2.3 導入直後引張 応力度の欄	セットによる減少量2断面6断面PC鋼材図心位置のコンクリート応力度7979	2断面 6断面 セットによる減少量 79 79 PC鋼材図心位置のコンクリート応力度 2.69 2.05
106	下から1行目	図 7.1 耐震設計フロー	図 7.1.1 耐震設計フロー
112	図 7.1.3	(モデル図の中の P3 橋脚基部の節点番号) 119	111
119	表 7.1.8(4) 欄外の注)	$J = (L_b^2 + H^2)/12 \times W$	$J = (L_a^2 + H^2)/12 \times W$
138	上から1行目	7.2.4 非線動的形解析による応答値の算定	7.2.4 非線形動的解析による応答値の算定
145	上から 17 行目	・・・ねじり剛性を 1/20 した値で評価する.	・・・ねじり剛性を 1/20 にした値で評価する.
157	表 7.2.13 タイトル	レベル 2 地震動に対する線形時刻歴・・・	レベル 2 地震動に対する非線形時刻歴・・・
160	図 7.2.16 タイトル	P1 橋脚下端(部材 307)・塑性ヒンジ部・・・	P1 橋脚下端(部材 316)・塑性ヒンジ部・・・
162	表 7.2.14 タイトル	レベル 2 地震動に対する線形時刻歴・・・	レベル 2 地震動に対する非線形時刻歴・・・
164	図 7.2.21 タイトル	P1 橋脚下端(部材 307)・塑性ヒンジ部・・・	P1 橋脚下端(部材 311)・塑性ヒンジ部・・・
171	図 7.2.24 P1 橋脚の図中凡例	補強前せん断耐力 Vyd 補強後せん断耐力 Vyd	変更前せん断耐力 Vyd 変更後せん断耐力 Vyd
216	上から 10 行目	レベル2地震動(タイプ)の設計水平震度	レベル 2 地震動の設計水平震度
224	図 6.1.1 の注	$S_d(F_d)$: F_d による断面力	$S(F_d)$: F_d による断面力
225	図 6.1.2 の注	$S_d(F_d)$: F_d による断面力	$S(F_d)$: F_d による断面力
227	上から 18 行目	$M = -P \cdot L \cdot /(0.13 \cdot L + 0.25) \cdot P$	$M = -P \cdot L \cdot /(1.30 \cdot L + 0.25)$
227	表 6.1.1	1.0 + (L - 1.5) /12	1.0 + (L - 2.5) /12
239	図 6.2.2 の注	S_d (F_d) : F_d による断面力	$S(F_d)$: F_d による断面力
240	図 6.2.3 上から 3 番目の枠内	曲げ剛性係数	曲げ・ねじり剛性係数
240	図 6.2.3 下から 4 番目の枠内	断面諸定数(2)の計算 純断面 PC 鋼材換算断面	断面諸定数(2)の計算 純断面 PC 鋼材換算断面 場所打ち換算断面
284	表 7.1.19	327.70 mm	372.70 mm
288	表 7.1.25	(表の下から4行目、左から2列目) 設計応答変位	設計せん断力
288	表 7.1.25 備考欄,最下段	帯鉄筋の補強が必要	帯鉄筋の変更が必要
289	表 7.1.27 タイトル	帯鉄筋補強後の・・・	帯鉄筋変更後の・・・
289	表 7.1.27	(表の下から4行目,左から2列目)	
		設計応答変位	設計せん断力
307	上から7行目	非線形時刻歴応答解析の結果として ,	非線形静的解析の結果として ,
307	図 7.1.28 グラフの中の説明	kh=0.696(基礎の降伏点) 3列目の杭:引抜き支持力上限値	kh = 0.696 3 列目の杭:引抜き支持力上限値
	H/U:7J		